

家庭や仕事安定し、健康状態も良好であれば、きつと幸福に暮らしていくことができるでしょう。

しかし、人生は思い通りになることばかりではありません。充実した日々を送るためには、楽しいことを楽しむのは当然のこととして、苦しい時にいかに心を前向きに保てるかが重要だといえます。「喜ばば、喜びごとが喜んで、喜び連れて、喜びに来る」といわれるように、そうした前向きな姿勢が人生を好転させていくのです。

保険代理業に携わるK氏は、常にポジティブな言葉を使うように心掛けています。それは保険の仕事は、類似商品を扱う競合他社も多く、最終的には担当者の印象で契約が決まることも少なくないからです。

さらに倫理法人会で明朗な心の重要性を学んでからは、人と接する時には相手の良いところを見るように努め、問題が起きた際には「(人生の勉強になる)」と前向きに受け止めるようにしていました。そうした意識の積み重ねで、K氏の物事をプラスに捉える姿勢が培われていったのです。

そんなある日、K氏のもとに子供が通う小学校のPTA会長が訪ねてきました。話を聴くと、次年度のPTA会長が決まらない状況にあり、他の保護者にも話を持ち掛けたものの、全て断られ困り果てているといいます。そして最後に「次年度の会長を引き受けてほしい」と懇願されたのです。

話を聴いたK氏は、PTA会長はやるこ



全ては人生の勉強となる

るなかに「これまでで会長を務めてくれた方々のおかげで、子供の学校生活が守られていた。困っているのなら、これも人生の勉強として、受けさせていただけよう」と、快く引き受けることにしたのでした。

その後、本業とPTA会長の仕事で多忙な日々を送るようになったK氏。会合も多いため学校へ足を運ぶ機会も増え、学校との関わりが深まってきました。

すると、それまで知り得なかつた学校での子供の様子がよく分かるようになり、家庭内での子供との会話が增え、親子関係が一層良好になりました。

また仕事においても、同世代の子供を持つお客様との会話がこれまで以上に弾むようになり、契約が決まるケースが出てきました。さらにはPTA会長を務めたことにより、子供向けの保険や、学資保険といった家族向けの商品への理解が深まり、結果として契約が増えていったのです。

時間や労力の観点からは、一見マイナスに思えるPTA会長の仕事も、K氏が積極的に受け止めたことで、家族の絆を深め、新たな学びを得ることとなり、家庭と仕事の両方で大きなプラスになりました。

表面的には辛く思える状況や、起きてきた苦しい問題も、それをどのように未来へ繋げるかは、今の自分の受け止め方次第です。まずは「全てが学び」と受け止めて、目の前のことに喜んで取り組みたいものです。その時、きつと境遇のほうが、明るい心の通りに変わってくるはずですよ。